

豊洲問題を考える

都政問題研究家 末延 渥史さん

東京都が運営する築地中央卸売市場の豊洲移転問題がテレビや新聞で連日とりあげられ大問題になっています。

発端は、昨年の都知事選挙にあたって小池百合子知事が、「いったん立ち止まって考える」と表明。また、日本共産党都議団の調査で隠さ



税金のムダづかいウォッチングツアーの築地市場調査
=2月11日、「東京の会」世話人・木村幸太郎さん提供

れていた市場棟の地下空間の存在が
発覚。そこに有害物質で汚染された
たまり水が発見されたことです。

その後、東京都は11月に予定して
いた豊洲新市場の開場を延期し、環
境アセスメントの結果をみて、開場
するかどうかを判断するとしていま
した。ところが、今年に入って9回
目のモニタリングで地下水から、環
境基準を超えるベンゼン、シアン、
ヒ素などの有害物質が検出されるこ
とになりました。これは新市場の地
下の土壌汚染が、いまなお解決され
ていないことを示すものです。

■豊洲に舵を切った石原元知事

このような土地への移転を強行し
たのが石原慎太郎元知事です。

石原元知事は就任当時、築地現地
再整備で合意されていたにもかかわらず、築地市場が「狭い」「古い」「危
ない」といって豊洲移転に舵をきり

かえたのです。

その豊洲は、かつて東京ガスが石
炭から都市ガスを生成していたこと
ろで、東京ガスは東京都の買収希望
に対して、深刻な土壌汚染を理由に
土地の譲渡を拒んでいました。

これを抑え込み、ずさんな土壌調
査と土壌改善対策ですませ、豊洲移
転を強行したのです。

■食品を扱う市場として不適

豊洲の土壌の無害化は全部の土を
入れ替えでもしない限り実現できま
せん。くわえて、予定地は液状化が
発生する軟弱地盤(埋立地)であ
ること、交通手段が新交通のゆりか
もめだけの交通不便地区であること、
移転によって「築地ブランド」が失
われることなど、どの点から見ても
市場として不適であることは明らか
です。

■なぜ、豊洲移転

では、なぜこんな土地に移転する
ことになったのでしょうか。そこに
は、築地という都心に残された第一
級の土地の再開発を狙う財界・デ

ベロッパー、大型化された市場への
参入をもくろむ大手流通資本、道州
制にあわせて基幹市場を計画する国
破たんした臨海副都心開発の救済を
もくろむ東京都などの思惑がありま
す。また建設にはスーパージェネコン
が群がり、4000億円にもふくら
みました。

建設費は独立採算の市場会計でま
かなうこととされていますが、結局
税金投入による救済が避けられない
との指摘もあります。

■築地現地で再整備を

築地市場は水産物と青果物を取り
あつかう総合市場で、水産物は世界
最大級の取扱規模を誇るとともに、
国内市場の参考価格を形成する「建
値(たてね)市場」としての役割も
有している重要な市場です。

小池知事は、無謀な豊洲移転をた
だちに中止し、築地現地再整備に立
ちかえるべきです。その際、最近、
明らかにされた築地市場内の有害
物質について、徹底調査をおこない、
無害化の対策を緊急に講ずることも
当然です。

連載「現代税のたたかい」は休みます。